

7

やまのうちの植物

氷河時代の生き残りや雪へ対応した植物などいろいろな植物があるよ。



志賀高原はおよそ1600 mを境にして上部はコメツガ、オオシラビソの亜高山帯針葉樹林、下部は落葉広葉樹林となっています。落葉広葉樹林には一部にブナ林が残るほかは大部分が二次林（ブナ林などの伐採後に再生した森林）になっています。

森林の凹地には多数の湖沼や高層湿原が点在し、特殊な環境で生きる植物が生息しています。

◆日本を代表する亜高山帯針葉樹林

志賀高原ではオオシラビソやコメツガが多く見られます。オオシラビソは雪の多い志賀高原で多く見られます。コメツガは岩の上や倒れた木の上で芽生えて成長することが多く、クロベは尾根筋や湿原のまわりのような他の高木が生育しにくい場所に出現します。



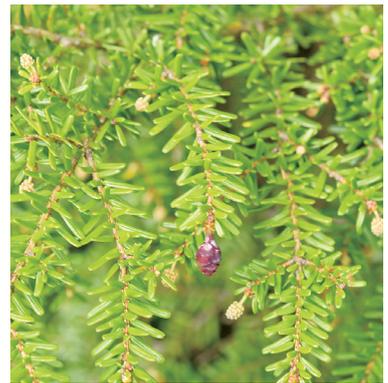
オオシラビソの樹皮



オオシラビソの葉



コメツガの樹皮



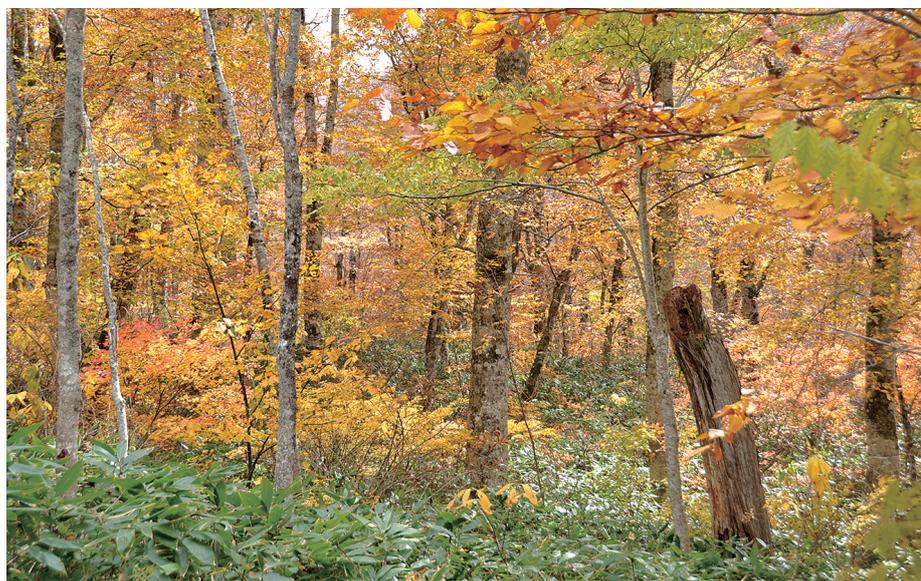
コメツガの葉

◆ブナ林

奥志賀高原や北志賀高原に原生状態のブナ林が広く残っています。ブナ林は伐採されると、ミズナラ、シラカンバ、ダケカンバなどの林に姿を変えていきます。



ブナの実



ササが林床に繁茂する奥志賀高原のブナ林

◆特殊な環境で生きる植物

高層湿原の植物

湖沼にミズゴケ類が生育し、それらが枯れて泥炭となって堆積してできたのが高層湿原です。ヒメシャクナゲ、ツルコケモモ、ワタスゲなどはミズゴケ類とともに酸性で栄養分の乏しい湿原に適応した植物です。モウセンゴケは食虫植物で、不足する栄養分を虫から補おうとしています。



田ノ原湿原



ヒメシャクナゲ



ワタスゲ

多雪に適応した植物

多雪地帯である志賀高原では多雪に適応した植物が多く見られます。ヒメアオキ、ヒメモチ、エゾユズリハ、ハイイヌツゲなどです。



ヒメアオキ

◆氷河時代の生き残り

ミツガシワは氷河時代の生き残りです。氷河時代に陸続きだったシベリア大陸から渡ってきて日本列島の広い地域に分布した植物が、温暖化に伴い北方や山地へ追いやられ局所的に生き残ったものです。

通常は高山帯に生育するハイマツ、ツガザクラ、クロマメノキ、ヒメイチゲなどを志賀高原では低い標高で見ることができます。

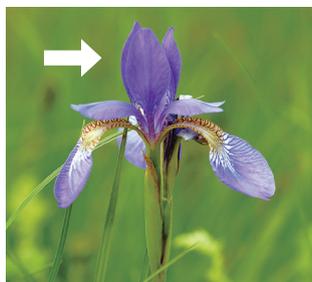


ハイマツ



ミツガシワ

◆「志賀」の名がつくシガアヤメ



アヤメ



シガアヤメ



ヒオウギアヤメ

葉の中心から上方に伸びる花びら(内花被片)を比べると、アヤメでは大きくウサギの耳のように目立ちます。ヒオウギアヤメでは小さく目立ちません。シガアヤメでは両方の中間的な大きさです。シガアヤメはアヤメとヒオウギアヤメの雑種と考えられています。

「志賀」の名前がついたシガアヤメは貴重だね。

